



名取 武一 議員

国保料は一般会計繰入で現状維持を

一般会計繰入は公平性に反するので行わない

質問・・・今回の国保料改定は大幅引き上げではないか。

町長・・・法律に従った計算で、コンピュータシミュレーションで求めた料率である。

質問・・・諏訪他市町村で大幅引き上げの事例はあるか。

町長・・・近年では、岡谷市が21年度に17・97%、諏訪市が20年度に20・44%の引き上げ（23年度に若干の引き下げ）を行った。

質問・・・過去に富士見町で大幅引き上げをした経過はあるか。

町長・・・本年度を除くと事例はない。

質問・・・激変緩和策を考えていない。

るか。

町長・・・まず優先すべきは、公平性の原則を堅持すること。

質問・・・国民健康保険は「相互扶助」ではなく、社会保障制度である。社会保障とは、貧困を予防し、貧困から救う制度ではないか。

町長・・・国民一人ひとりがきちんとした生活ができるように、という社会保障の基本理念は理解している。

質問・・・国保加入者には税法上所得ゼロ以下という貧困世帯が多数含まれている。現状をどう見るか。

町長・・・所得ゼロイコール悲惨な生活とは一概に言えない、調査が必要と考える。

質問・・・昨年同様、一般会計からの繰り入れにより、引き上げ率を抑えるべきではないか。

町長・・・一般会計の財源は、町の税金収入。国保加入者は町民の3分の1で、全町民の税金を一部の人だけに使うことは公平の原則から著しく離れるので、繰り入れは行わない。

□その他の質問

*町の防災対策について



小林 市子 議員

農地の現状維持は可能か

儲かる農業施策を進める

質問・・・農業の復活と農地の現状維持を目標値としているが、担い手が担いきれない状況をどう考えるか。

町長・・・農業を維持発展させる方策は、若い人たちが後を継ぐことしかない。まず耕地を集約して広くし、効率よく機械化を図る。少人数でも耕作できるようにすることが必要と考える。

後継が見つからない場合は、新規就農パッケージでインターン者に就農を目指してもらうこと、有害鳥獣対策の強化が柱になる。

質問・・・小規模農家の担い手によって、里山が守られている。農業者のやる気を出す対策が必要では。

町長・・・後継ぎとなるべき新規就農者に職人芸的な技術とノウハウを教え込んでもらう里親を見つけて、指導育成すること、住居と機械と農地を町が用意し、3年間月額40,000円を支給するという新規就農パッケージ事業を行っている。昨年度は、夫婦で就農する人を中心に、7組がこの制度を利用した。

質問・・・自然や住環境へ配慮した循環型社会を次世代に残したい、そういう想いで農地を守っているところへの支援は。

また、景観と里山を守る農業を観光と一体に考えてはどうか。

町長・・・今までのスタイルの農業では食えないという状況が、農業離れの最大の原因になっている。最近では、都会で仕事が無いインターン者が増えていることから、新規就農者を受け入れる事業で農業の活性化を図っていく。儲かる農業で経営のビジネスモデルを作り、農業改革を進めていきたい。

□その他の質問

*公共施設の耐震整備計画と建物資産・資源の利活用について

*職員定員管理について